

春の天王山ウォーキング 2024 に参加して

5月18日(土)、先輩ガイドのタイムリーなフォローをいただきながら、初めての全行程、ポイントでの案内をした。天王山の自然に触れながら、大山崎、天王山に関わる歴史、その説明に共感いただけたらとの思いで臨んだ。

歴史資料館出発、まずは町の名、“大山崎”と“山崎”では何が違うの？“大”のつくことの意味。そして、大山崎の八幡宮に“離宮”の名が付いているのはなぜ？大山崎ふるさとガイドの会に入って、そのなぜが解けた。参加のお客様には、まずはこのことは伝えようとトライした。始めよければ半ば良し。

その土地、その場の歴史、史跡を伝えるといっても話だけでは難しい。なにか史実を感じる、目に映るものがあると良いなど感じる。関大明神しかり。神社横の道標に記載されている山城国・摂津国の名

を見て、“関”の名、神社の位置、意味合いも納得されていた。また、本殿の額に「鎮疫神」とあるのも、関の字の付く神社の意味を感じとられたようだ。天王山山頂への道筋にある陶版画は説明するうえで大いに助けとなった。

天王山ウォーキング参加の皆さん、天下分け目の天王山／山崎合戦史のみならず、京都、大阪方面の眺め、天王山の山頂に立ち記念写真、新緑の心地良い山道歩きを楽しんでおられた。

大きなトラブルもなく小倉神社に到着。心地良い天王山ウォーキングとなった。



旗立松陶板画前にて

(4班 野村輝行 記)

～わたしのふるさと～

私は広島県尾道市因島で生まれました。この島の産業の中心は造船で、最盛期には「造船と除虫菊の島」といわれていました。造船の他は、みかんや八朔等の柑橘の栽培が盛んで、八朔は因島が発祥の地です。

因島は気候温暖でとても風光明媚なところです。因島八景の一つ八重子島は、大浜町の沖合に浮かぶ大小2つの岩礁ですが、干潮時には砂州が伸びて沖合から八重子島まで歩いて渡ることができます。子供のころ潮干狩りを楽しんだ記憶があります。海は波穏やかですが潮の流れが速い為、難所といわれています。

ところで、親父から聞いた話ですが、私の先祖は修験者で、船で離れようとしている泥棒をほら貝を吹いて沖に戻した法力の持ち主だったそうです。



八重子島

(3班 酒井重男 記)

私の故郷は吾妻小富士を望む、福島県伊達市です。仙台の伊達政宗が有名ですが、伊達家発祥の地は福島県の伊達市です。平成の大合併で誕生し、伊達家ゆかりの居城跡が点在します。北海道にある同名の伊達市は仙台の伊達家由来のものです。

果物の栽培が盛んで、特に桃やリンゴ、あんぼ柿(干し柿)が有名です。中学時代には桃の袋掛け作業を全校生徒が行ないました。また、赤飯が入った大つつこ(大俵)を三組に分かれて引き合う「つつこ引き祭り」は300年近く続く勇壮な祭りです。

盆地のため夏が暑く、先月も全国一の最高気温の日がありました。お陰で関西の暑さにも順応できているのかと思っています。

(4班 須田幹夫 記)



つつこ引き祭り

第二大山崎小学校 校外学習 天王山登山コースを案内して

5月20日(月)第二大山崎小学校4年生 生徒・先生一行58名が6班に分れ学校を出発し、瓦窯跡公園からガイドがスタートしました。

宝積寺では先生の説明で閻魔堂を班ごとに拝観し、生徒たちは「両親や先生の言うことをよく聞き、良い子でいます」と閻魔様に誓いながらお参りしていました。またタラヨウというハガキの木の葉に「お母さんお弁当を作ってくれてありがとう」とか「世界が平和でありますように」など各々メッセージを書いています。

いよいよ登山道に入り、各所でのガイドの説明に熱心に聞き入りメモしていました。山頂に着くと待ちかねていた弁当タイム！あちこちでシートを広げグループごとにおかずを交換したりしながら食べ終え、直ぐに元気に走りまわって山頂全体が歓声に包まれていました。

各所の歴史的な説明を興味深げに聞き入り「大山崎って凄いところなんや！」と驚いたり、戦の話には

「今は平和で良かった！」という声がありました。展望ポイントでは三川合流点や交通の要所であることが実感できたようです。奥の山展望台では母校が見えると喜んでくれました。普段は長距離の山道を歩くことがないようで口々に疲れた～と言いつつも、最後まで歌ったり、言葉遊びをしたりと元気に学校まで到着しました。

私はガイド経験が浅く特に小学生は初めてでしたが、説明に言葉を選ぶ難しさはあったものの、とにかく疲れを知らない子供たちに沢山のパワーをもらい楽しく終えることができました。



宝積寺にて

(2班 野間幹二 記)